

3. 鶴ヶ峰駅北口周辺地区の課題

鶴ヶ峰駅北口周辺地区の現況に基づき、本地区及び本地区周辺の課題を「拠点性、土地利用」、「道路、交通」、「文化、水・緑環境」のテーマごとに、次のように整理します。

テーマ①：拠点性、土地利用

①-1：土地利用

- 横浜市都市計画マスタープラン（全体構想）では、主要な生活拠点での土地利用を「通常の圏域を超えたところからのアクセスも想定すること」や「高密度で駅前にふさわしい土地利用への転換」などと位置づけています。本地区は、市営住宅跡地など低・未利用の土地があることから、更なる土地の利用・活用が必要です。
- 相模鉄道本線によるまちの分断など、一体的な土地利用が図られていません。
- 鶴ヶ峰駅周辺には、保育所や医療施設が立地しているため、今後も需要に沿ったサービスの維持・充実が必要です。
- 鶴ヶ峰は広大な駅勢圏を持ち、主要な生活拠点として多くの人が集まるまちですが、本地区内の広場機能は規模が小さい「鶴ヶ峰まちかど広場」しかなく、来街者も含めたより多くの人が集まること出来る広場が必要です。

①-2：行政施設等

- 昭和44（1969）年の旭区誕生当時から、鶴ヶ峰は旭区の中心拠点である総合庁舎が立地するまちとして発展してきました。横浜市都市計画マスタープラン旭区プランでは、「行政機能と文化施設の充実したまち」としての土地利用を図り、旭区の中心部として二俣川駅周辺と一体的に機能強化を図るとしています。

しかし、旭区総合庁舎（昭和46（1971）年竣工）は老朽化、狭あい化、窓口の分散化などの問題を抱えているため、区民サービスに支障をきたしています。また、旭土木事務所（昭和46（1971）年竣工）は老朽化や総合庁舎から遠い（総合庁舎から約1km離れた立地）などの問題を抱えています。

このような現況から、行政機能の環境改善が必要です。

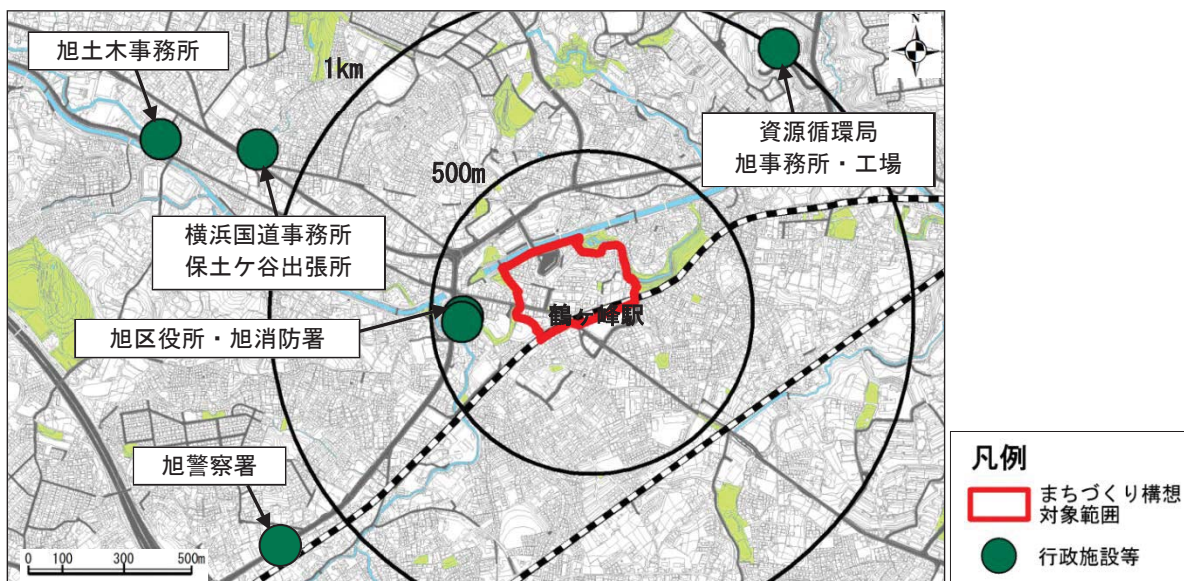


図 現況図（行政施設等の立地状況） 出典 都市計画基礎調査（平成25（2013）年、横浜市）

①-3：商業環境

- 鶴ヶ峰駅からバスターミナルや旭区総合庁舎への動線上に形成されている商店街は、人通りが多く賑わいのある商業環境ですが、歩行者と車が錯綜するなど危険な状況がみられます。
- また、水道道沿いに形成されている路線型商店街の一部で、歩道が狭く危険な状況がみられます。
- このような現況から、より快適で安全な商業環境づくりが必要です。

①-4：住環境

- 鶴ヶ峰駅周辺には、戸建てを中心とした住宅地が広がっており、駅の近くに立地した住みやすい環境となっているため、現在の住環境の維持・保全に向けた検討が必要です。
- また、高齢化の進行など居住者世代の偏りも発生しています。
- 横浜市都市計画マスタープラン旭区プランでは、開発などの機会を捉え、商業・業務施設とともに、都市型住宅などを誘導し、地域の特性に応じた土地の有効利用を図ることとしています。
- そこで、多様な世代の人に受け入れられる駅前にあふさわしい住環境が必要です。

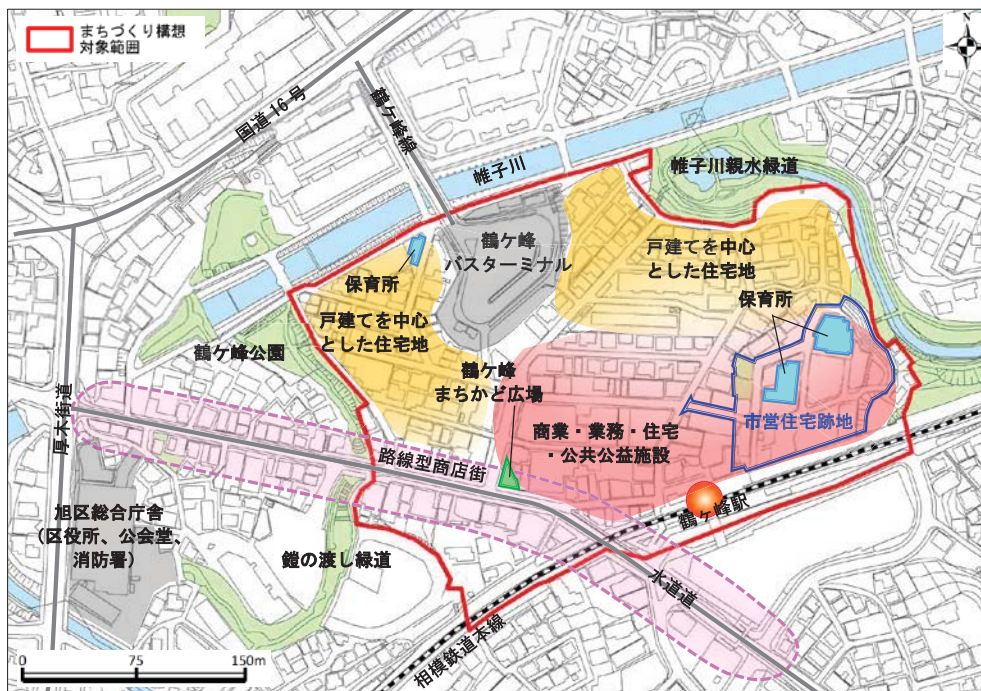


図 駅周辺現況図（テーマ①関連） 出典 都市計画基礎調査（平成25（2013）年、横浜市）



写真 低・未利用な市営住宅跡地



写真 旭区総合庁舎

テーマ②：道路、交通

②-1：道路ネットワーク

- 鶴ヶ峰駅周辺では、歩行者と車が錯綜するなど、危険な状況がみられることから、交通環境の改善が必要です。また、線路と道路の交差点である踏切（鶴ヶ峰2号踏切）は「開かずの踏切」となっており、慢性的な交通渋滞が発生しているとともに、鉄道によってまちが分断していることから、踏切を除却することが必要です。
- 水道道から厚木街道へ右折する車の滞留や、「鶴ヶ峰交差点」と「鶴ヶ峰駅入口交差点」の間隔が近いことなど、円滑な交通処理が確保できずに慢性的な交通渋滞が発生しており、駅へのアクセス低下や緊急車両の通行など緊急活動への影響が出ていることから、需要に見合った道路ネットワークの改善が必要です。

②-2：駅前広場

- 鶴ヶ峰駅とバスターミナル及びタクシーのりばとの間が離れている、歩道が整備されていない、バスターミナルの位置が分かりづらい、などの課題があります。
また、タクシーのりばが道路上に設置され、一般車の乗降場は鶴ヶ峰駅周辺に整備されていないため、道路上でのタクシー及び一般車の待機や生活道路への流入があり、通行に支障が出ています。
このような現況から、賑わいのある商業環境に配慮しながら、適切な規模・位置で広域交通ネットワークの拠点となる駅前広場等が必要です。

②-3：歩行者・自転車

- 水道道は道路の幅員が狭く、朝の通勤時など、歩行者・自転車・自動車が錯綜し、危険な状況がみられることから、交通環境の改善が必要です。
- 線路によりまちが分断されており、駅を中心としたまちの回遊性の改善が必要です。
- 北口周辺の自転車駐車場は約2,000台の規模があり、利用率は高く、定期利用の更なるニーズもあります。現在の自転車駐車場の多くは空地等を活用したものであり、施設が分散し、使いにくい状況となっています。
このような現況から、自転車利用環境の改善が必要です。

3. 鶴ヶ峰駅北口周辺地区の課題

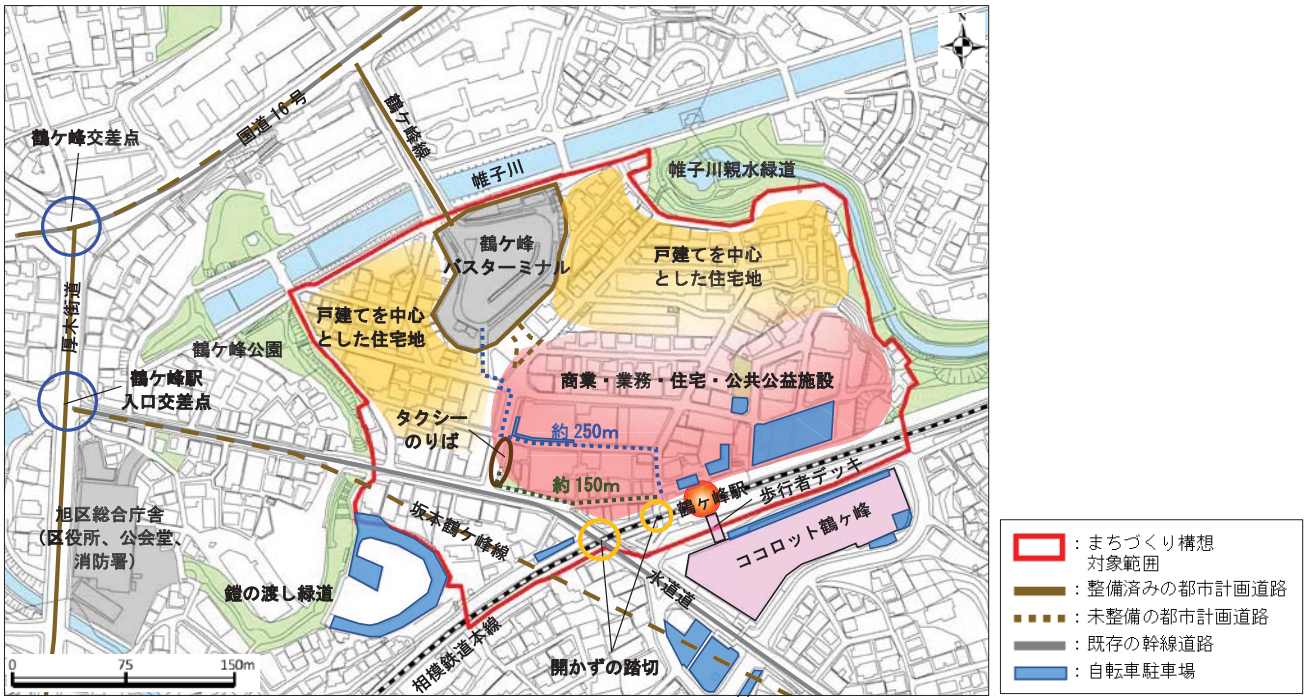


図 駅周辺現況図（テーマ②関連） 出典 都市計画基礎調査（平成 25（2013）年、横浜市）



写真 歩行者と自転車、自動車の錯綜状況



写真 踏切遮断による渋滞状況



写真 水道道の渋滞



写真 タクシーのりば

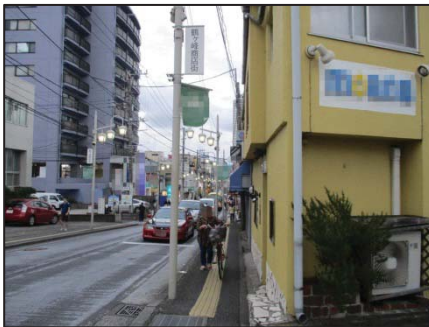


写真 水道道の歩道



写真 市営北口第四自転車駐車場

テーマ③：文化、水・緑環境

③-1：市民利用施設等

- 横浜市都市計画マスタープラン旭区プランでは、「行政機能と文化施設の充実したまち」としての土地利用を図り、旭区の中心部として二俣川駅周辺と一体的に機能強化を図るとしています。

築48年を経過した「旭公会堂」は老朽化が進んでいます。また、「旭図書館」は駅から遠い高台にあります。

このような現況から、環境や立地の改善が必要です。

- 旭区市民活動支援センターや白根地区センター、鶴ヶ峰コミュニティハウスなどでは、区民による文化的な活動が活発に行われており、更に活動を促進できるような環境が必要です。
- 市内でも有数の集客施設である横浜動物の森公園（ズーラシア）は、最寄りの鉄道駅から離れた場所に立地しているため、交通利便性が低く、鶴ヶ峰駅からのバス利用者の利便性向上などがが必要です。

③-2：水と緑のネットワーク

- 鶴ヶ峰駅北口周辺には、「帷子川」、「帷子川親水緑道」、「鶴ヶ峰公園」、「鎧の渡し緑道」などがあり、駅周辺で豊かな水・緑に触れることができます。

しかし、駅前からの動線がわかりづらいことから、貴重な環境資源を生かして、地区内外の人々がより水・緑環境に親しむことが出来るまちとするため、水と緑のネットワークと駅前との連続性の確保が必要です。



図 駅周辺現況図（テーマ③関連） 出典 都市計画基礎調査（平成25（2013）年、横浜市）

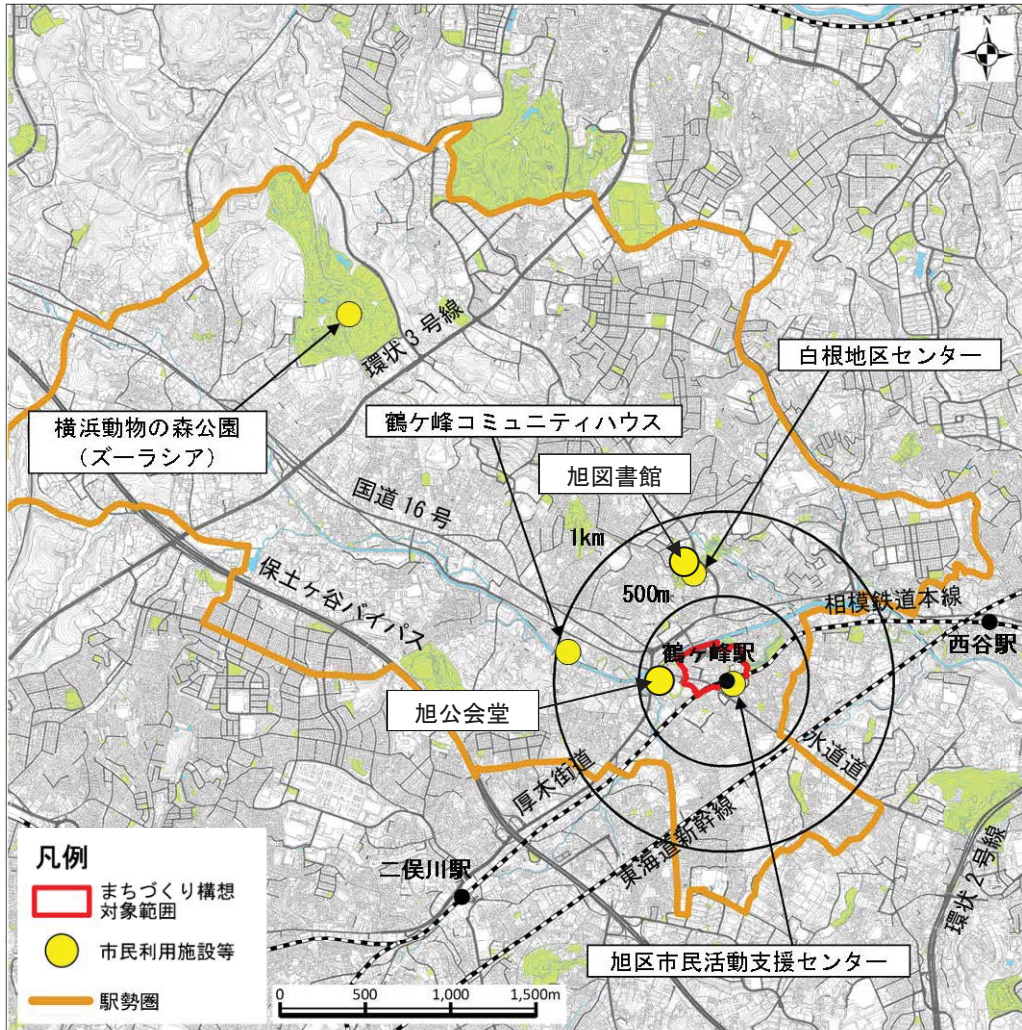


図 広域現況図（テーマ③関連） 出典 都市計画基礎調査（平成25（2013）年、横浜市）



写真 旭公会堂



写真 旭図書館